

私の好きな時間

my sweet days - 14 -

トランペットで人々に感動与える

石井 健次氏 [鹿島建設(株)東京建築支店]

建築部 設備工事管理部 部長



クラシックの名曲が、トランペットの鋭く華やかな音に乗って響き心地よい。

鹿島建設(株)東京建築支店の石井健次部長は、小学5年の頃からトランペットの音色に惹かれ、レコードを集めては聴き入っていた。

中学でブラスバンド部に入部し、トランペットを吹き始め、高校は当時の吹奏楽界で日本屈指の名門といわれた大宮工業高校に入学。日本の吹奏楽界の第一人者である秋山紀夫先生の指導により上達し、3年生の時には、超・高校級トランペット奏者と評された。

「トランペットを吹き始めて今年で40年。なぜ今まで続けてこられたかを考え

ると、やめる勇気がなかったことと、楽器を通じて別の自分が主張できる心地よさなどが要因ではなかったかと思います」。

昭和45年、同社に入社後も仕事の傍ら、トランペットをやめられず「新交響吹奏楽団」に入団した。同楽団は、昭和36年に3つのオーケストラの管楽器奏者を中心に結成され、クラシックを独自にアレンジ(編曲)して演奏する異色の楽団である。「演奏時間の長い交響曲でも全曲、しかも原曲のキーで演奏することをポリシーとしています」。あくまで“原曲に忠実”という姿勢を崩さないため、年2回の定期演奏会を楽しみ

にしているファンも多い。

「今年で入団35年目ですが、特に印象深いのは団長を務めていた創立25、30周年の時に、アマチュア初のサントリーホールでの満席コンサートを企画し成功させたことです」とニコリ。

平成11年には多年にわたる念願が叶い、ソロアルバム(CD)を出した。「次はリサイタルを開き、広くアピールしたいですね」。

「プロよりも巧いアマチュアトランペット奏者を目指す」ことを胸に秘めながら、生涯現役として演奏活動を全うしたいという。

目下、秋に行う45周年記念コンサートでのソロ演奏に向け、練習に励んでいる。

旋律を吹く時はコルネットを使う

新交響吹奏楽団定期演奏会(平成17年5月なかのZERO大ホール)
<http://www.shinkyowind.com/>

